

# 新年のごあいさつ



▲左から教育長・副市長・市長・議長・副議長

湖南市長 谷畑 英吾

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしき年明けをお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は市政の様々な面でご理解とご協力をいただきましたことに感謝を申し上げます。

昨年は草津線でのびトレインが運行を開始し、三雲駅舎の橋上化が完成しました。また、石部小学校のグラウンドの芝生化や甲西中学校の耐震化が完成し、文部科学省で湖南市の教育施策が全国に展開されるなど、教育に注目が集まった1年でもありました。

平成30年は<sup>つちのえいぬ</sup>戊戌の年です。戊は「そびえ立つ山」、戌は「草木が枯れる」の意で、今までの流れが変わり目を迎えることを表しています。丁酉の昨年新しい動きが生じてきたことを受けて、思い切った変化の年となるということです。

今年の湖南市は、みらい公園湖南の農家レストラン建築や市民農業塾、十二坊温泉ゆららの改装、百歳大学とこなん・ザ・ボイストレーニングのさらなる展開など農業と健康を中心に、未来湖南市政策コンテストや湖南市JK課プロジェクト、中学校議会など若い世代からの提案も取り入れた新しいまちづくりが進展していきます。ローカルベンチャーやイモ発電、庁舎耐震化や地域未来投資促進計画の具体化など、新たなステージに踏み込む湖南市でありたいと願っています。

湖南市議会議長 松原 栄樹

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはご壮健で希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

湖南市議会は、昨年10月の市議会議員選挙で選出いただきました新しいメンバーで任期のスタートを切りました。

さて、昨年秋に開催された東海道ウォーク“みちくさコンパス”では、甲西中学校の生徒たちが、スタッフボランティアとして300人も参加されたことは大変喜ばしいことでした。先月には、3年生がまちづくりへの意見を交わす“甲西中議会”を議場で開催し、若者目線の多彩な事業を提案し、活発な質疑応答を繰り返しました。中学生がこのまち(郷土)のイベントに参加し、まちの将来を思っていることに喜びと未来を感じました。

少子超高齢化が進み、また、東京一極集中となっている今日の日本社会では、地方の活力が最も重要だと思います。高齢者には“人生100歳時代”といわれる中で、60歳代70歳代は現役世代の認識と、何事にも参加参画する意識を持って社会生活を送ることが求められ、一方では、若者の力をいかに引き出すかが今日の地方社会の課題だと思っております。

市民それぞれが、あらゆる立場、場面で明るく楽しく毎日を生きることが、湖南市がますます元気なまちへと発展することに繋がると信じ、努力いたします。

結びに、この一年が皆様にとりまして明るく希望に満ちた年になりますことをお祈りし、新年のごあいさつといたします。